

豊田郡遺族会

豊田郡遺族連合会歴代役員名簿 (H5・10・1)

町名	会長	婦人部長	青壮年部長
本郷町	行年 政一、小島 正登	神田 幸子	中西 正友
安芸津町	荒谷 権造、松田 岩三 保井 清三	竹本 和子 吉岡 義江	松浦 敏美 保井 清三
安浦町	山田 新一、大橋 一美 財賀 寿夫、下農三枝子	大成 ○○ 政岡 信子	田村 秀彦 森川 登
川尻町	銭谷 定雄	奥田 松恵	杉田 秀夫 高場 和子
豊浜町	下地 善亀、菊本 松二 山崎 久雄、鷹橋 正和	高野ツヤ子 黒田 春子	伊藤 一成 高岡 司
豊町	多賀谷孝春 金子 正、梶岡 露太	北田 梅子 寺田八千代	久保 一 上神 敬弘
大崎町	飛騨 悟、楠 正彦 廿日出恒夫 香河 仙三	川本ミサヲ 横手 澄子 大成 末子 幸家 貴美	安浦町 敬弘 川尻町 昭月 川尻町 昭月

豊田郡遺族連合会役職 (H3・7・1)

町名	役職名	氏名	住所
東野町	射場 一也、向田 一三	松浦ヤチヨ	山川 豊
木江町	榎本 昌造、高橋 豊	豊	宮本 勉
瀬戸田町	赤松 藤一、堀 芳彦	山田久美子	上杉 文子
大谷 谷、杉原吾三郎	本賀 龜野	山室 正行	
奥田 豊、原田 弘美	大谷美代香	毛利 紀夫	
森本 秀直		稲垣 圭三	山本 貢
本郷町	婦人部長	神田 幸子	本郷町南方瓦釜
安芸津町	婦人部長	吉岡 義江	安芸津町木谷三六〇
安浦町	婦人部長	大林 幸子	安浦町赤向坂五〇
安芸津町	青壮年部長	保井 清三	安芸津町風早六四七
豊町	青壮年部長	下農三重子	安浦町内海四六六
豊町	青壮年部長	森川 登	安浦町内平三三
豊町	青壮年部長	錢谷 定雄	川尻町川尻二六七
豊町	青壮年部長	中村セツ子	川尻町川尻二六九
豊町	青壮年部長	河場 和子	川尻町川尻二六三・一〇五
豊町	青壮年部長	多賀谷孝春	豊浜町豊島三三八

豊浜町 婦人部長 北田 梅子 豊浜町豊島三六三

青壮年部長 久保 一 豊浜町豊島三七六

会 長 廿日出恒夫 豊町大長五三三

豊 町 婦人部長 横手 澄子 豊町久比三三五

青壮年部長 上神 教弘 豊町沖友五五五

会 長 香河 仙三 大崎町中野五七三

大崎町 婦人部長 大成 緑 大崎町中野五七〇

青壮年部長 川岡 昭司 大崎町大串六六三

会 長 高橋 豊 東野町外表四三六六

東野町 婦人部長 松浦ヤチヨ 東野町脇之浦四一九四

青壮年部長 宮本 勉 東野町白水六六五〇〇

会 長 堀 芳彦 木江町木江

木江町 婦人部長 山田久美子 木江町明石一九九

青壮年部長 上杉 文子 木江町木江三三三

会 長 森本 秀直 瀬戸田町高根一〇三三

瀬戸田町 婦人部長 大谷美代香 瀬戸田町福田二〇三三

青壮年部長 稲角 圭三 瀬戸田町御寺一〇五五

各町慰霊祭追悼式実施表 (H5.10.1)

町名 行事 主催者名 場所 適要

本郷町 慰霊祭 郷友会長 中央公民館 仏式

安芸津町 春季慰霊祭 郷友会長 護国神社 神式

安芸津町 秋季追悼式 遺族会長 蓮光寺 仏式、法話

安浦町 慰霊祭 郷友会長 中央公民館 仏式、法話

川尻町 追悼式 町長 光明寺 仏式、法話

豊浜町 慰霊祭 (慰霊祭実行委員長) 公民館 仏式、神式

豊 町 追悼慰霊式 (社福協会会長) 公民館 年次交互

豊 町 追悼慰霊式 (慰霊祭実行委員長) 文化センター 仏式、神式

大崎町 慰霊祭 (遺族会長) 招魂社 神式

大崎町 追悼式 遺族会長 清光寺 仏式

大崎町 追悼式 遺族会長 清光寺 町内寺院廻持

東野町 追悼式 遺族会長 中学校体育館 神式、仏式

東野町 追悼式 遺族会長 中学校体育館 神式、仏式

木江町 追悼法要 社会福祉協議会長 公民館、浄泉寺 円妙寺法話

木江町 追悼法要 社会福祉協議会長 公民館、浄泉寺 年次交代

瀬戸田町 慰霊祭 (慰霊祭実行委員長) ペリカント 仏式、御永歌

瀬戸田町 慰霊祭 (町長) ホール 法話

備考 日時は年度により変更することあり。

合同慰霊祭並遺族大会実施表

年次別 町名 会長名 場所 様式 適要

昭和二十九年 忠海町 恩田 〇〇 地方事務所広場 仏式 初会

昭和三十年 瀬戸田町 大谷 稔 学校講堂 仏式

昭和三十一年 安芸津町 荒谷 權造 学校講堂 仏式

昭和三十三年 本郷町 行年 政一 学校校庭 仏式

昭和三十六年 豊 町 金子 正 学校校庭 仏式

昭和二十年三月三日夫は勤務先より、「之でやつと男に成りました」と喜んで帰宅をしました。健康そのものであった自分は兵役も務めず応召の無かった事を殊の外恥かしく思っていたに違いありません。その時母は人が帰って来ても若しもの事があつたらどうしようかと密かに思っていたそうです。

十一日八幡神社で奉告祭、私は風邪をひいている二才の息子を背負って共に広島へと行きました。野砲隊衛門の前で別れましたが振り返って見る事はしませんでした。女々しい気持ちを出しては成らない。溢れる涙を押えてひたすら歩きました。今にしてみればもっと何か暖かい言葉を別れ方をすれば良かった。後悔をしています。

当時私は教壇に立っておりました。運動場は芋畑に早変わり、靴の配給は籤引き、ノートは藁半紙、毎日の様に日の丸の小旗を振っては出征兵士を見送りました。総べてお国の為と強い団結の元で励まし合いました。B29機具の上空を蜻蛉の様に飛んでいましたが一度も命中しませんでした。

継ぎはぎの服、赤い模様のある着物、お米の代りに砂糖や大豆……でも農家の為何とか凌ぐ事が出来ました。

幸いにして両親は健在でした。孫の可愛さの中にも厳しく育ててくれました。が、私は父親の居ない悲しさ淋しさを思わせたくない。陰のある子供にさせては成らない。常に頭の中から離れませんでした。成人した頃父親の居ない悲しさは大学進学の時であったと言いました。二人の父親と成っている今どの様な思いで行く末を見守っている事でしょうか。

終戦後期待と不安の中で夫の帰還を待ちました。日曜日毎に噂を聞き

てはあちこちと尋ね廻り、手紙の問い合せ、見知らぬ四国の辺鄙なへも行きましたが総べては空しい事でした。

「流れ行く雲に尋ねん吾が背夫は

何処の果に眠り給ふや」

茜の空は唯々淋しいばかりでした。

広島県庁で合同慰霊祭が行なわれたのは終戦五年目で満州国和泉泉鋪附近で果てたとの事でした。狼の餌食か凍死したのか……。どの様な最期であったでしょうか。三十二歳の短い命でした。息子は「親父の歳を今越えた。」と感慨深げに言って居りました。何一つ遺品は有ませんでした。が今丘の上の墓地で私共の暮しを見てくれています。

「流れる星は生きている」著書作家の藤原てい先生の講演二度も聞く事が出来ました。涙無くしては聞けません、よくぞ生きて還られました。人間の生きる力の素晴らしさたくましさを実感致しました。今も宗教戦争、人種別戦争と世界の何処かで血なまぐさい事が起っています。痛ましい事です。どうぞ一日も早く平和な日が訪れます様祈り続けております。

かつての日細川総理の先の戦争は誤であったと申されました。全国戦没者慰霊祭の時事、私はハツとしました。考えに考えられた言葉とも思いますが何れにせよ遺族の胸中を深くお察し下さい。歴代の総理の方靖国神社へお参り下さい。遺族の声は次第に小さくなっていきます。世代交代は止むを得ません。国の政策宜敷く御願致します。今日日本の繁栄は此尊い方々のかけがえのない命の代償である事を決して忘れては成りません。

どうぞ此燈火を何時迄も絶やす事なく永遠に点し続けて頂く事を念願しつつペンを置きます。